

## ■特集 ■ トピックスを歌う

### 武藤義哉

・下の子の受験が迫りわが家ではまた世界史が流れ始める

読売歌壇平成二十六年九月一日

上の子の受験から五年たち、久し振りにフランス革命がどうしたとか、世界史のことがわが家で話題になる。「トピックスの歌」というテーマをもらい、改めて私にはかかる歌が極めて少ないと感じる。わが家

のトピックスの歌は、前掲歌のようなものがいくらかはある。しかし、日本・世界のトピックスの歌となると、ほとんど皆無だ。どうしてだろうと考えてみるが、自分が短歌で詠いたいのは、小さなもの、特定性のないものだからなのだと思う。それは、童話に通ずるのかもしれない。童話は何年に、とか、どここの村で、というような特定性はなく、「昔々あるところだ」で始まる。生起することも、歴史的な出来事などでは

ない。短い表現形式の短歌が得意とするのも、マスコミで報道されるような大事件を描くことではなく、時間からも空間からも自由な、小さなものをとらえることだという意識が私には強い。それでもあえて、ということを探したら、次の一首があった。

・悲報でもないが朗報でもなくて梅雨入りという静かなニュース

読売歌壇平成二十六年七月八日  
日本のトピックスではあるが、大事件でも